

武家名目抄稿

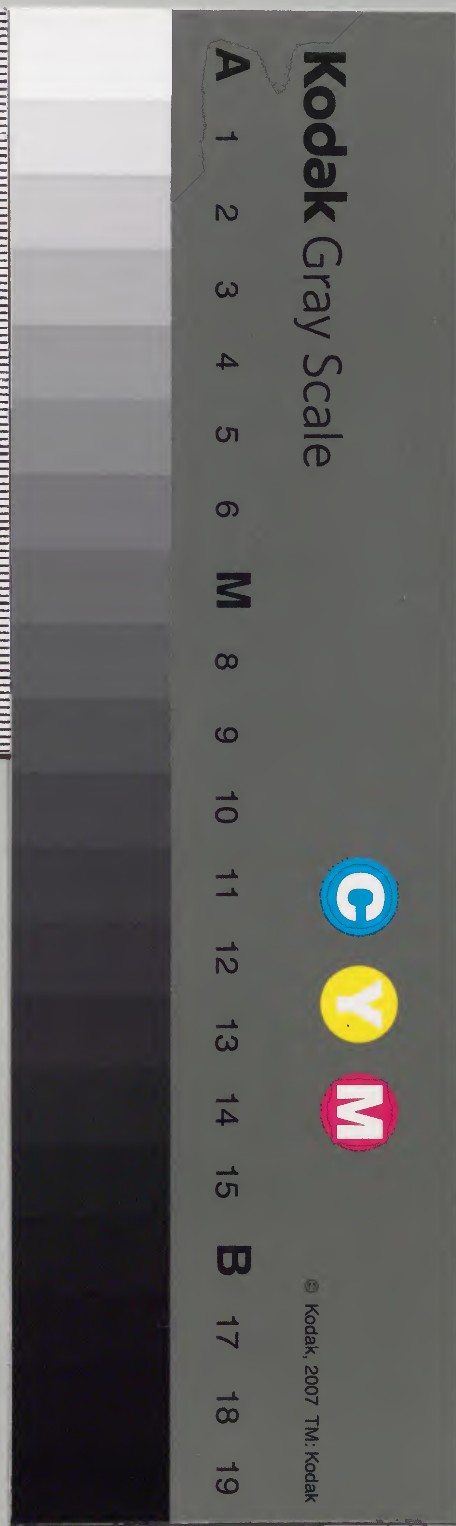
輿馬部六上

八

和書門	二五二〇六	類
架	一〇七	冊
函	四六	冊
號	一〇七	冊

和書	二五二〇六	類
架	一〇七	冊
函	四六	冊
號	一〇七	冊

內閣文庫	番號	和 25206
	冊數	457 (385)
	函號	153 275





武家名目抄稿第八冊

輿馬部六上目錄

天斑馬

赤六

戀地

鳴鳥子

尾白

榛原





翡翠

若菜

御坂

三日月

本白

和琴

宇都濱

穂檀

信
長
五
日
様



鳥形

花形

花形見

野口

宮橋

望月

宮城

野里

尾花

日差

蝶額

大甘子

小甘子

白絃

夏引

流星

雲分

一六

花柑子

薄雲

今无

南鏡

煖延

西樓

生暖

摺黒

白波

木下丸

ナニチヤウ

雨雲

浦々

荒磯

鴨上毛

子師丸

夕顔

都返

鶯
以上三
名一馬

遠山

春風

磯

薄櫻

一霞

月輪

若白毛

町君
以上三名

薄墨

青海波

人妻

髮不捺

飛龍

一郎

片洲

片岡

直山

深山路

御局

立波

土龍

兔鷄

松風

小龍
今无

音曲
今无

古龍
今无

伊提天
以上三
名一馬

光陰

楓林

漣

八鐘

天久

吉川
今无

河邊

岩石落

龍神

須弥長

大龍寺 今无

小鳥 今无

京不見

櫻野

ヒノキ

太平樂

水戸

北サマ

明玉

武家名目抄稿第八冊

奧馬部六上

天斑馬

日本書紀云卷神代素蘇茂蘇鳴尊蘇之為行也甚無

狀何則天照大神以天狹田長田為御田時

素茂鳴尊春則重播シキ種子シ重播シキ種子シ且毀

其畔波秋則放天班駒使伏田中復見

天照大神當新嘗時則陰放ケ於新宮又見

天照大神方織神衣居齋服殿則剥天班駒
穿殿覺而投納

古事記云天照大神坐忌服屋而合織神御
衣之時穿其服屋之頂逆剥天班馬剥而所

隨入云々

赤六

戀地

鳥子

尾白

榛原

翡翠

若菜

御坂

三日月

本白

和琴

宇都濱

穂檀

鳥形

花形

花形見

野口

宮橋

望月

宮城

野里

尾花

日差

蝶額

大甘子

小甘子

白絃

夏引

江談抄云高名馬名赤六穗坂十七粟毛戀
地鳥子尾白榛原翡翠若菜別粟毛御坂近
江粟毛三日月本白和琴宇都濱穗檀、
糟毛鳥形花形見野口宮橋前黒糟毛後黒
糟毛望月宮城野里尾花日差蝶額大甘子
小甘子白弦夏引

按今昔物語源平盛衰記花形見作花形

法成寺撰改記云寛弘二年正月十九日戊

辰藏人雅任申文満正朝臣献馬翡翠

平家物語云此条^五杉ふまの三鳥一の也

ちの^ハハケ^ハく^ハ乃^ハむまとして入た

く^ハやく^ハく^ハへま^ハく^ハせ^ハく^ハる^ハく^ハ

るき^ハむまのひ^ハふ^ハ志^ハる^ハく^ハを^ハれ^ハあ^ハを^ハ

く^ハら^ハ月^ハと^ハそ^ハい^ハれ^ハる

長門平家物語云^一谷^ハ合^ハ高山赤段の宵

戦条

にうすの矢たひるみ。月と。黒
馬にふくた。南。き。に。の。う。た。り。る
ふ。ら。う。ち。ふ。月。の。こ。れ。あ。り。き。を。三。月。と
を。川。け。り。る。

梅。ふ。重。忠。の。乗。る。を。江。詔。州。に。い。は。ゆ。
三。月。と。い。き。る。ふ。あ。り。同。名。あ。り
と。い。く。ふ。あ。り。る。望。月。由。亦。志
か。り。

源平盛衰記云義経落畠山ハ赤威胃ニ護
田鳥毛ノ矢負ヒ三日月ト云フ栗毛馬ノ
太ク逞ニ乗タリケリ此馬鞭打ニ三日ノ
月程ナル月形ノ在リケレハ名ヲ得タリ
又云馬尾鼠巢條六件馬相摸国住人大庭三郎景
親カ東八ヶ國第一ノ馬トテ進タリ黒キ
馬ノ太ク逞シキカ額ヒ月ノ大サ白カリ
ケレハ名ヲハ十五月トソ申シケル

又云 鷲尾三郎一 義經力乗タル大鹿毛ハ
 陸奥国ニテ名ヲ得タル氣高キ逸物也サ
 テモ我朝ノ名馬ニハ三日月和琴鳥形花
 形浦々荒磯望月宮木大甘子小甘子夏引
 小花ナントナリ或ハ長七尺ニ余リ或ハ
 八尺ナントアリケリト云満正カ赤六負
 任カ大黒ニモ劣ルヘシトモ覺ス

流星

宇槐雜抄云保延三年九月廿三日仁和寺
 競馬行幸也廿四日按察赤示予云昨日兼行
 落馬為不勝負相構之由有其疑仍今日又
 可被乗云々七番 左左近番長播磨武弘勝
 流星右右近番長秦公正
 関白ニ 栗毛 十番 左左近番長下毛野敦正勝久
 家駁右右近衛中臣季重関白
 毛葦

雲分

古今著聞集云いほきの持祿乃ゆめより東

三條くく雲分しりふりり馬をのら連
るふ中門の廊若中にはまうる代分車
若此戸の如く飛出さうり

一六

古今著聞集云坊門大納言左忠門督く付
ける時建曆院御禊幸に一六云馬を赤く
供せせらまき多るふ二條室所く院の
古棧登の前の幔風吹上りきたり

驚て古棧登の赤く御初御く走るを馬
割牽馬らむうされてるを控くく留め
けるふとふ御由切なける馬川りに靴を
た足つらぬきこえ靴をうりに靴をかき
おれを後馬にまゐるをかきく二条馬^鳥は
る棧登の赤くくく久らまきくく足は目代
るるくく

花柑子

中つれを大物はきかきさるる。〜とて志
らあけけし。〜とてあんなまや。〜とてひら
うせらまき。〜とてふとけくらをまきま
ひりまき。

又云 競 瀬 糸 三 かしらておしるひはあ

一け馬由己との一言は強ひたるうまんか
は〜むそ由し仲縁うさうさ〜とのさうひ
事れは糸らせらゆき〜ひき出〜す。

世あ〜伊豆夜にれをうけく大物乃高き
すう京中一乃名。あんなね。あ〜あ
〜や大物〜早のをほ〜と思ひ
命と〜ふと倒〜なんね。あをわあ
〜せ〜

煖 延

平家物語云 競 糸 三 流 涙 かけり〜と流し
あといお侍の〜とていといわらう朝敵と

ら多きなるよ、鞍をい、鞍にさ、
志ゆく所、帰らむや、り、
馳ま、り、
と、

西樓

平家物語云、
代、
さ、

と、

源平盛衰記云、又西樓ト云、秘藏ノ馬アリ、
後、
毛、
ノ、
ニ、
秘藏シテ假居ノ西ニ厩ヲ立テ晝ハ人目ヲハ、

馬ノ白ラ月ニ喩ヘ西ノ厩ヲ樓ニ喩テ西樓ノ名付タル

生啖

摺墨

平家物語云 生食 大に大將軍は蒲津曹子範頼搦まれ大將軍は九郎曹子義経と申すもの大に云十路人部在る路云万路と云少云一其以説食後生食磨

墨と云ゆる名ありたり生食とは枕原源吉原孝頼と不望中多道在是ハ自然の事ありん時頼頼ら物具一一字々人き馬あり是とあらぬ名なりは磨墨をこしと強く音造をぬき作本四帝高経西略中に泰ら道多る子孫食後以つて思ふと道多ん不望の者といくらあつて強と由は音造知をよと生食

事あり同し旅り召法のはり、兼季を依
依来より長終ら道しる事、こを迷根の次
有ふ道、今夜却へより本宿の西内に四天
王とまゆる今井樋口根井と組む死ぬる
物らす、西國へ向行く一人南子とまゆる
平家の侍を、軍に死ぬんと、其思ひ
う、此等色くは、を、思ふ

爰より依来と侍りけり、細く、其邊好



侍二人死す、徳倉殿に換と、せ寄らんと、不
慮し、し、於、依来、これ依来、何、何、取、歩
と、出、来、る、推、原、押、並、へ、く、や、く、あ、な、ま、き、向、ふ
さ、あ、ま、あ、く、や、れ、と、は、と、只、ひ、り、る、り、先、洞、を、を
無、り、る、い、ふ、依、来、も、後、と、生、食、終、り、く、世、終、ひ
く、と、く、世、終、り、あ、し、い、ひ、ま、れ、と、依、来、も、あ、り
そ、道、は、何、も、内、く、本、宿、中、つ、と、同、し、其、の、を
と、き、つ、と、思、ひ、ま、れ、今、夜、は、西、大、事、に、依、来、も

り定る宇治勢方の橋をば引あきらんあ
河を渡す人きつるをたしし生食をちかうをや
とは存門道とも橋原後のちさせ路ふじに
は橋をきれあきし承くましく高綱れとり
ちしゆよも路りらし後

神由あらはあまを存つてぬ。まんとん
流曉舎人に心を合しけし由は秘藏の生
食飲ぬすしす満しきうきうハひのに

橋原後とソひりきしは橋原此詞又版くわく
神りしむさうハ京季もぬすむるうりけ
るとのをとてしりて笑門

音

又云の新川は木四部に路りりしりり
西るはくろくりけなるるれきえ失て
ふとく多しきしきりるをもく体もあ
しりてらつてくむは色はソけき記と

つけらまゝにうすまはるゝそ関えーかち
はらゝ語をまゝにうすまはるゝはるゝもみゝくた
くもーまゝのまゝにうすまはるゝまゝにまゝに
すゝとつけらまゝにうすまはるゝまゝにまゝに
めいも也

長門本平家物語云 摺巻紀は此の馬を池す
紀といひたる事は馬をも人をもちらふるな
り八寸の馬とせまゝにうすまはるゝまゝに

るまゝにうすまはるゝまゝにうすまはるゝ

白波

長門本平家物語云 然るに平山城十次郎直家

まおのうすまはるゝにすゝまゝにうすまはるゝ
まゝにうすまはるゝの胃にかけあるゝ小黒鞍立
てまゝにうすまはるゝまゝにうすまはるゝ秋のの
すゝまゝにうすまはるゝあらひうはのまゝに
まゝに甲をまゝに黒月毛なるゝまゝに

志ら波とそりひる海と一の物也以馬
を陸奥栗原あまもし云而の牧と物をも
かみみたくま〜志らり〜れと白波浪
とをつけ〜

源平盛衰記云熊谷向小二郎ハ白波ト云

フ馬ニ乗タリケリ此馬ハ奥州姉葉ト云

所ニ白波ト云牧ヨリ出来タル上尾髪ア

クマテ白ケレハ白波ト名付タリ権太栗

毛ニ上下論タル逸物也

太平記云稲村崎成源氏巳ニ若宮小路マ

テ攻入タリト騒キケレハ相摸入道嶋津

ヲ呼寄テ自ラ酌ヲ取テ酒ヲ進メ三度傾

ケル時三間ノ馬屋ニ被立タリケル関東

無双ノ名馬白波ト云ケルニ白鞍置テリ

被引ケル

木下丸

長門平家物語云新編 施新條旨 ある人よれ

うさうひさうれ木の下丸是よまらうく

はよううけぬいまやをー聖のきよく

あんどいのソちまらうくいまの代あは

まみいまやとりされまをいむよは

能是くつりまをいむいむ仲つまめり

くろまは免くりかーうまをいむ

のまーみきーいせよとのさひれ

を云し

源平盛衰云木下 仲綱不及力父ノ命ニ随

テ木下ヲ右大将ノ許へ遣テケリ聞ニ

合テ実ニ能馬ナリケレハ舍人アマタ付

テ内廐ニ秘藏ノ立カヒケリ日數へテ後

伊豆守使者ヲ以テ召ヲカレ候シ木下丸

返し玉ハルヘキ由申タリ右大将此馬ヲ

ハ惜テ其代トヲホシクテナニヤウト
云馬ヲタヒタリケリ極テ白キ馬也ケレ
ハナニヤウトハヨハレケリ是モ実ニ
太ク逞クノ能馬ナリケレトモ木下ニハ
及ヒ付ヘキ馬ニ非ス

雨雲

^{十六}長門本平家物語云義經細玉如郎美經あま
の錦此のしきり黄返此胃きい宿禰毛

ある馬のふくたくきくつん尾
くみくひく名をはあまくもと云よん
死りきりける東一乃名了あり二日
一日くそりちき

浦

荒磯

平家物語云東国兵伊豆國住人北條四郎
時政ハ荒磯トテ引タリ

梅時故此示るは盛衰記より見えし荒
磯と同じや吾や洋なれ

源平盛衰記云サテモ我朝ノ名馬ニハ三

日月和琴鳥形花形浦々荒磯望月宮木大

甘子小甘子夏引小花ナントナリ或ハ長

七尺ニ余リ或ハ八尺ナントアリケリ

鴨上毛

源平盛衰記云 東国兵馬 相摸國住人三浦ノ

和田小太郎義守ハ鴨ノ上毛白波トテ引

夕顔

子師丸

源平盛衰記云武藏國住人蒔屋庄司重國

ハ子師丸トテ引夕

夕顔

都返

鶯 以上三名一馬

源平盛衰記云 石橋山合戦條 与一カ乗タル馬ハ

白茸毛ノ太クタクマシキカセ寸ニアマ

リテ鼻ノサキ瓠ノ花ノ如ク白カリケレ

ハ名ヲハ¹⁰フ¹⁰加¹⁰ホ¹⁰ト云フ東國一ノ強馬

ナリ本三浦介カモトニ有ケルカ餘リニ

コハクテ輒ク乗ル者モナカリケルヲ岡

崎所望シテ乗リケルカソレモ進退シカ

子タリケルニ与一ハカリソ乗リ隨ヘタ

リケルサレトモ岡崎持和^{アツカヒ}テ三浦へ返シ

タレハ本ノ栖へ返タリトテ都返ト名ケ

タリ佐奈田折節馬ナクテ又乞返へシタ

レハ古^ル巢へ返リタリトテ鶯トモ呼ヒ

ケリ

遠山

源平盛衰記云 三位入道 競サセル身ニア

ヤマル¹候ハス身ニモ命ニモカハリ奉

候ハシトコソ存レツレトモ入道殿此間
心ヲ置玉ハハ浦ニ奉テ奉公モ不仕内々
ハ申入ハヤト存候ツルカ主ニ中違テイ
ツレカト人ノ御景迹モハツカシ自然ノ
次ヲト存ツル所ニ此仰身ノ幸也ト申ス
大将斜ラスウレシケニテ見参ノ始ナレ
ハトテ随分秘藏シタマイタリケル小槽
毛ト云馬ニ貝鞍オキ遠山ト云馬引具シ

黒糸ヲトシノ鏡冑皆具タヒテケリ

春風

源平盛衰記云 下 韃 籍 關 東 條 畠山韃籍ニ目ヲ

ソ懸タリケル進ニ退キ廻リ合ハムマ
ムト廻リケレハ木曾韃籍ヲ組セシト蒐
ケ隔テマニニテ二廻三廻カ程廻カ程
廻リケル知ニ畠山韃籍ニ近ク廻リ合フ
コレハ得タル便宜ト思ヒ馬ヲ早メテ馳

寄テ鞆繪女カ弓手ノ鎧袖ニ取付タリ鞆
繪ハ叶シトヤ思ヒケム乗タル馬ハ春風
トテ信濃第一ノ強馬也一鞭アテハアホ
リタレハ鎧ノ袖フツト引切りニ反ハカ
リソ延ヒニケル

磯

源平盛衰記云上総国住人介八郎廣経ハ
磯ト云馬ヲ引セテ参リタリ

薄櫻

源平盛衰記云下総国住人千葉介経胤ハ
薄櫻ト云馬ヲ引ク

一霞

月輪

源平盛衰記云東国兵蒲御曹子ハ一霞月
輪トテ被引タリ

若白毛

町君 以上二名一馬

参考源平盛衰記云 東国兵馬汰條 折節秘藏、御

馬三匹也。生啜磨墨若白毛。トソ申ケル 此按

間蓋有 陸奥三戸立ノ馬秀衡カ子ニ元能

冠者 按藤原系因有秀衡子本吉三郎高衡 カ進タル也。太ク

逞キカ尾鬣アクマテ足タリ此馬鼻強シ

テ人ヲ釣ケレハ異名ニハ町君ト被附タ

リ

薄墨

青海波

平家物語云 さりこの條 のやのやのうつ子

ハどしどし い く ま ふ 一 も あ の く 志 流 を

ぬ人のあんなはりの あ も も れ ん う す

あ こ と り ふ る ふ う あ 如 川 の 西 を さ し

て ね あ ら ま き を ね

源平盛衰記云 義經落能登守教經ハ室山

水島淡路島高繩菌部今木城所々、合戦
ニ高名シ給ヘリト聞ヘシカトモ大勢傾
キ立ヌレハ力及ハサル事ニテ薄墨ト云
ノ馬ニ乗リ湏間ノ関屋ヲ指シテ落チソ
レヨリ船ニ乗移リ淡路ノ岩屋へ渡リ給
又云鶴毛ノ馬ノ太ク逞ク尾髪足ルニ乗
ル名ヲハ青海波トテ東国第一ノ名馬ト
云々

参考源平盛衰記云東国兵大将軍九郎御

曹司ハ薄墨青海波トテ被引タリ

吾妻鏡云建長三年九月廿五日壬午今日

未刻幕府御馬駢鶴毛於御厩邊斃是御秘藏

之御馬也號清海波云々

人妻

参考源平盛衰記云東国兵畠山庄司次郎

重忠ハ秩父鹿毛大黒人妻高山葦毛トテ

引夕リ

髮不捺

吾妻鏡云治承五年六月廿一日己丑義澄

獻甲以下又進馬一疋号髮不捺度々合戰

駕之无雌伏之例云々

飛龍

吾妻鏡云文治元年十二月四日癸丑生倫

神主申云捧去月御願書令參籠于安房国

東條御厨序抽懇祈之処今月二日有靈夢

之告云二品則被奉御厩御馬龍飛於件

序云々

一郎

吾妻鏡云建久四年三月廿五日壬辰於武

藏国入間野有追鳥狩藤沢二郎清親施百

癸百中之楊藝獲雉五獲鶴廿五之名將軍

家御感之餘所駕給之御馬即一自令引之

給是曩祖將軍征負任給之後春有野遊清
原武則以一箭獲西翼于時將軍自引馬給
云被思食其例歛

片洲

吾妻鏡云建保元年五月四日甲辰將軍家
令尋聞軍士等勲功之淺深給爰波多野中
務丞忠綱申云於米町并政所西度進先登
云々米町事者置而不論政所前合戰者三

浦左衛門尉義村先登之由申之於南庭各
及噉々論之間被尋于彼時戰士等皇后宮
少進山城判官次郎金子太郎答申云赤皮
威鎧駕葦毛馬之軍士先登云々是忠綱也
件馬者自相州所令拜領也號片洲云々

片岡

吾妻鏡云貞應二年十二月三日丑尅奥州
御亭有光物仍即時於大倉藥師堂被始行

立波

兼久軍物語云志付くうあしはうけたるむ
戸北あくくたくまー記り立波とりて出
れもきこゆる名るふれともいふこのり入
さうまよてあまのゆる也

土龍

異制度訓往來云周八龍秦七駿蜀的盧楚
烏碓漢烏孫本朝厩戸王子甲斐黑駒大宰

大貳弘繼土竜類之更無高下也

兔雞

太平記云 長崎次郎高重 最後合戦余 長崎次郎甲ヲハ

脱捨筋ノ惟ノ月日推タルニ精好ノ大口

ノ上ニ赤絲ノ腹卷著テ小手ヲハ不差兔

雞ト云ケル坂東一ノ名馬ニ金具ノ鞍ニ

小総ノ鞆懸テリ乗タリケル

松風

難太平記云式部大輔入道殿事号三郎中

先代合戦の時海道に大將としく自京都

下向遠江國にや此中山よて先代の大将名残

と云者を討取き相摸國湯本よて海道のて

き要害と構く支多野北の山ふち上りて

式部入道殿に自勢汗よて落されて敵の

大勢に中に馳入らきしうは追破らき今此

難不危に傳ふ更ふ人馬の通ふへま道あらは

一谷よりゆりき岩崎成五町汁り落さ

れ幾二條殿よ季給らきある松風と云名

馬に荒るよ乗給ひ幸理馬の尻尾此もひ

まの皮よ破るるもや

光陰

三好記云三好長治見森飛驒守秘藏ノ持

タル光陰ト云馬ノ黄河原毛ナル馬四寸

有テフトク肥敷ニ金幅輪ノ鞍置熊ノ革

ノ鞆鞆ニ對シタル燈ヲサレ繫紫ノ大房付
タル鞆鞆カケ磨立タル轡ヲハマセ支綱
四筋ニテ扣タル舎人共ヲ引立跳上ル
南ノ摠門ヨリ入テ西ノ小門ヘソ通ケル
此馬ヲ光陰ト云事ハ世ノ中ニ光陰矢ノ
如ト云ヘルヲ取テ名付タル可成

楓林

漣

三好記云三好長治見篠原彈正秘藏ノ楓
林ト云馬ハ一年都ニテ院ノ御幸成ニ時
御車ヲ止メサセ給ヒ此馬ヲ廠覽有テカ
ル馬コソハ馬ナラメト勅詔有レ也サ
レハ古キ詩ニモ停車坐愛楓林晚ト作シ
詞ヲ取テ楓林ト名付タリ
又云篠原彈正同條子息大和守馬モ楓林ニ劣ラヌ名
馬也水ヲ游テ事偏ニ水鳥ノ如クナル逸

物ナレハ漣トテ名付タリ

八鐘

三好記云三好長治見家中之馬條 三好越後守馬ハ木曾

出立ノ能ヨシ鳥ヨリ早キト云心ニテハ

鐘ト名付タリ

天久

箕輪軍記云箕輪落陳所信玄の名馬

天久と申せ大切ニ成ル馬子落シ

る別其山の麓ニ此馬成埋其所又馬成親言

と云立あり

河邊

岩石落

大友貞廢記云志賀通擇所馬お領と 爰南郡

岡の城志賀兵部親教入道道擇丹生鳥

堂城の刻宗麟云伊きけ森能所以向代

出れに記者克の所わきにお領あり

道擇よりふしむきやの別當雄株母を
多し行ありし一留当北より道擇と行
りをちうけはる代名物のと記舎人中や
うこれハき川は麻毛肥前黒竜造寺糟毛
道は山口黒河邊岩石打たし武百余
乃今川きやう此物名馬を記をり

龍神

大友與廢記云 考後國方 大岡秀吉公と
物怪余

賜たる龍神と名馬物と云今人その
ことを聞けを世々今もあつそと云はるは
物をいふといは我はあつと云

須弥長

大友與廢記云 薩州日使志事 さらあしに
付須弥長馬の条

了秀由志のと記久公使志の返礼と云
ゆ長といふ山邊麻毛の名馬より志や
とあひせ入はるまゝ

京不見

末森記云奥州ノ仕置ニ出羽國マテ利家
卿利長卿御父子御越候時縮川ヲ早先キ
ノ人数半分ホトモ川向へ越タルニ俄ニ
大水出来テ中々舟ナラテハ通モ成カタ
キニ諸勢見ツク口ヒ川ノコナタニ人数
立居タル所ニ利家卿京ニヌト云名馬ニ
乗替給ヒ彼川へ乗入給へハ上下アハテ

サハキテ我先ニト乗入ノリイレ渡スホ
トニ川下セキ留ラレテ一人モ不残向ノ
岸ニ懸上ル

櫻野

大坂軍記云五月五日己の別京於河進發
尾張宰相駿河宰相清信也將軍と依見
河立山鳥の尾の河羽織羅紗に唐人笠の河
甲楯燈しと十寸三分の粟毛糟毛の河

雀尾の了證をうけり

ヒノキ

大坂軍記云伊達政宗多人水野日向寺内堀中
深多由竹本左門寺島助九郎三人味方寺神
保長三郎石川外記とも政宗味方也七日の
朝日向寺乗料ひのきこし馬口つていふ付
越前麻毛よ乗ゆる龍の記に寺嶋助九郎
孫く其の乗りいひ馬もたよ政宗多人天海珠

乃時流の孫格く日向人を付是政宗海に如を
見ひ此き代り余かす 吾并歩行者を切控彼
馬を吾人すあられとも政宗石及吳儀子

太平樂

大坂軍記云志田左兵衛を茶臼山より高き
此浦を足渡し合戦時分とて大坂西麓の不
足内中と急ら候子長太郎代以く城内へ云上
す秀頼公は聖地威の山物の具を召天まで

表西如唐下有り〜梅川くはか右園より清
相傳の金比切刻二十本高比吹母十本残瑁の
多本種押之右平樂と云七寸の黒乃水馬小梨
地の鞍並引寄云園より梅川並水門外堀は
〜〜〜甲冑此武志とも次方を穿く並居待
うけ〜

水戸

難波戦記云

大和口寄手之事
付後藤討死之條

後藤又兵衛

基次大和口大将成ハ惣白旗黒半月馬印
真先進黒系威鏡同シ毛頭成冑シカミノ
前立物打タルヲ猪首ニ着成熊皮尻鞆入
タル太刀帶黒羽織ヲ着シ水戸ト名付タ
ル馬ノ太ク逞キキニ鞍置テ打乗テ柳川ヲ
前ニ當テ道明寺表ニ馬ノ駈場ヲ残テ陣
ヲ取ル

北サマ

明王

里見代し記云同九月忠義公江戸へ御首
途ニ其比北サマ明王トテ二足ノ名馬ア
リケルカ明王スマヒメ死タリ

武家名目抄稿第八冊

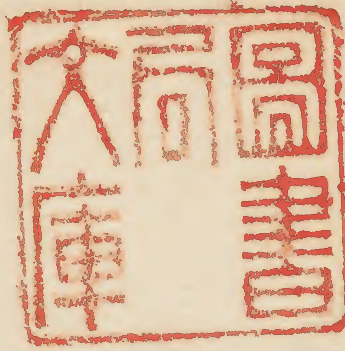
明治十五年十月 日旧稿校正 小野由久

同年同月廿一日再校并書 青山景通

同月廿三日以旧稿一校了成



明治十七年二月六日 校合青島英保



明治十七年四月六日 敬告 邦國 諸君

此書乃... 凡我國民... 宜共知悉... 庶幾... 國運... 蒸蒸日上...

同月廿五日... 再誌...

同日... 再誌...

此書... 凡我國民... 宜共知悉...

